

連絡員の皆さん

今年もよろしく

市内三百七十六人の連絡員の皆さん、昨年一年どうもご苦労さまでした。市内全世帯へ広報など市の文書が届けられますよう、今年もよろしくお願いたします。

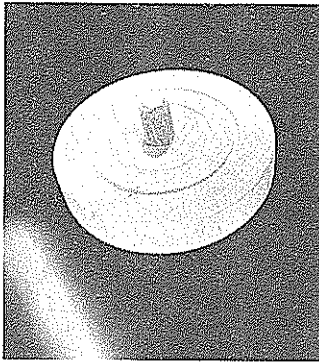
【総務課】



親子クイズ 201

親子クイズも今回で二〇一回を迎えました。そこで今回より親子クイズ「これはなんでしょう」を始めます。これまで同様よろしくお願いたします。

これはなんでしょう



◎ヒント 今の子供はあまりこれで遊ばなくなつたようですが、昔は正月といえはこれで遊んだものです。

答えについての思い出などもお待ちしています。

■しめきり 1月20日

■あて先 〒783 南園市大埔甲二三〇一 南園市役所広報委員会 親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所、氏名、年齢、職業を書いてください。

■賞品 正解者の中から抽選で五人に図書券を進呈。

第200回当選者発表(敬称略)

(応募総数46通)

■答え 三〇八

■当選者

竹内伸一(園豊町中島)

川田泰史(左右山)

高木慶子(前浜)

前田和世(大埔)

谷合百世(大埔)

平手イツパツ

あゆみ

家庭教育学級専任講師 田植 静代

ある日本の外交官が西ドイツに在留中、駅のプラットフォームで出会ったことを記事にされていました。次はその記事です。

「私(外交官)が駅のプラットフォームで、汽車を待っていたときの事です。

そのホームには私のほかに五、六人の人が立っていて、その中に四、五歳ぐらいの男の子と母親がおりました。ところが、その男の子が母親に向かって、何やらしきりに言っているのです。しかし母親は首を振り「ノー、ノー」と何度も繰り返していました。すると男の子は大きな声を出してわめき泣きだしました。母親が「やめなさい」と言っても泣きやめません。私は、これはやけが始まったぞと見ていました。

その親子のそばに一人の老婦人がいました。その婦人が急につかつかと子供の前に行つて「やめなさい」と言いました。男の子は一時驚いて泣きやめました。老婦人が離れると、またまた前よりも大声を上げて泣きわめきました。

母親は知らんふりをしています。再び老婦人は男の子のそばに来るや、子供のほつたパンを平手でたたきました。そして何か一声、二声しゃべり

ました。男の子は前よりも驚いて泣きやみ、母親のそばに駆け寄つてすがりつきました。すると母親は子供に向かって「ほれごらん。ホームの皆さんがお前のやけで迷惑を受けているのだよ。当然のことです。」と、男の子に話していたのです。

私はこの様子を見て、ほんとうに驚きました。もしこれが日本で起こつたとしたらいったいどうなつていただろうかと思ひました。という記事だったので。

さて、もし日本であつたら子供が泣きわめいても、周りの者は知らん顔をしていたでしょう。万一老婦人のような人がいたとして、子供に手をかけたら、日本の母親は気が狂つたようになつて子供をかばい怒り抗議したことになるでしょう。

ドイツの母親が冷静で、これを当然として受け止めているところに、日本社会と西洋社会とのしつけに対する大きな隔りがあるように思えるのです。西洋諸国では、子供たちは社会のもの、だからしつけは家庭だけでなく、社会の人々もみな責任を持つて互いに注意し合うという気持があることを強く感じました。